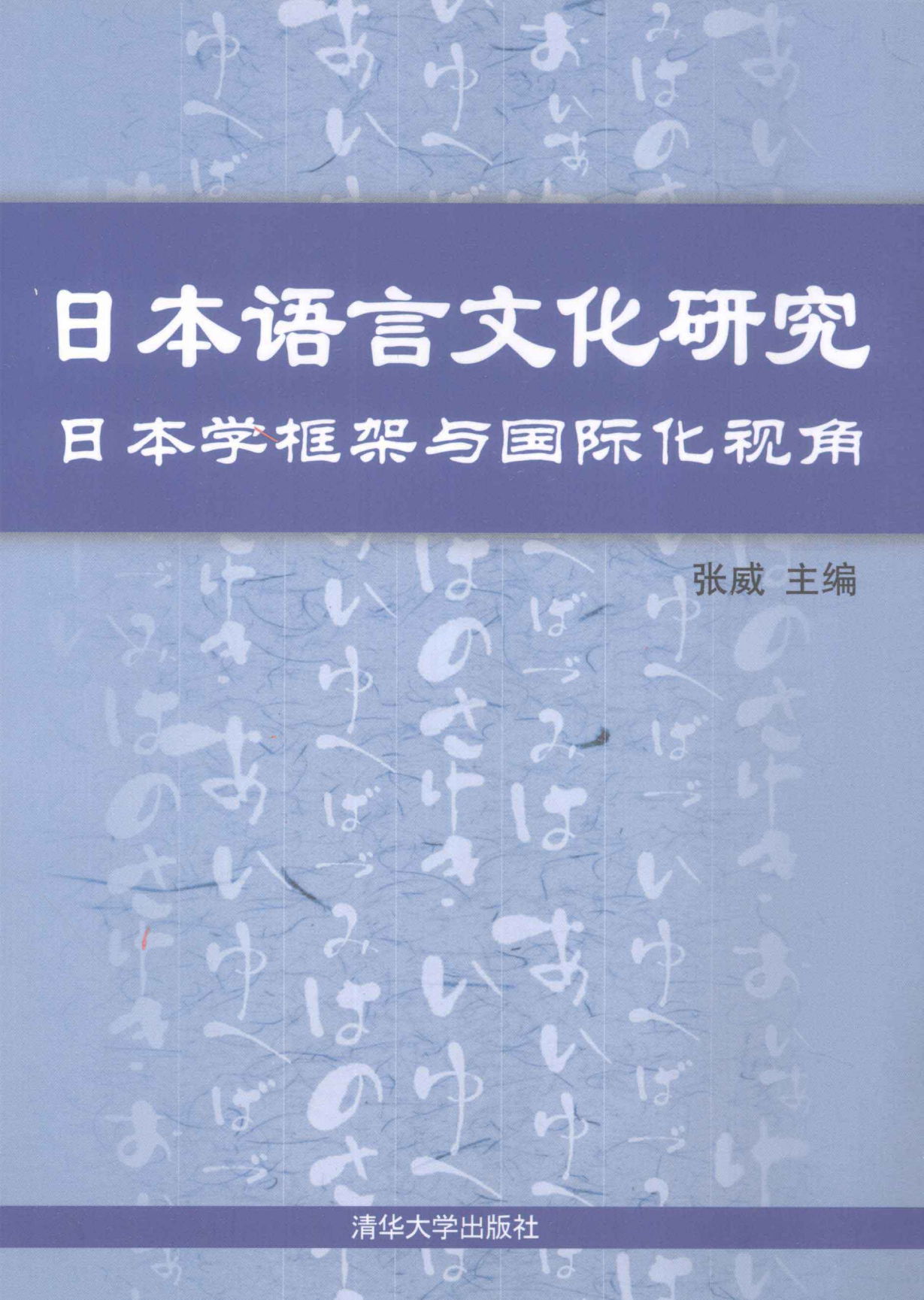




日本语言文化研究

日本学框架与国际化视角

张威 主编

清华大学出版社

日本语言文化研究

日本学框架与国际化视角

顾问 宿久高 水谷修 久野暲
川本皓嗣 平井勝利 尾上圭介

主编 张 威

编委 (按姓氏拼音排序)

冯 峰 冯海鹰 郭翠英
隼雪艳 陆泽军 王婉莹
王彦花

清华大学出版社

北京

内 容 简 介

本书荟萃了经过清华大学首届日本语言文化研究国际论坛组委会严格审查的优秀论文60余篇,这些论文的作者大多数都是国内外日本语言、文化、文学研究领域的精英或著名学者,研究领域包括日本语言研究、日语教学研究、日本文学及文化研究。

在某种意义上说,本书可以反映出现阶段国内外该领域学术研究的水平和动向。其中不少文章涉及国外日本语言文化研究的前沿课题,这些成果对于我国的广大日本语言文化研究者将具有非常重要的借鉴意义和学术影响。

本书读者对象:从事日本语言、文化、文学研究的学者、研究人员、教师、研究生以及高等院校日语专业学生。

版权所有,侵权必究。侵权举报电话:010-62782989 13701121933

图书在版编目(CIP)数据

日本语言文化研究:日本学框架与国际化视角/张威主编. —北京:清华大学出版社,2008.9
ISBN 978-7-302-17602-2

I. 日… II. 张… III. 日语—语言学—文集 IV. H36-53

中国版本图书馆CIP数据核字(2008)第064485号

责任编辑:刘细珍

装帧设计:常雪影

责任校对:王凤芝

责任印制:杨 艳

出版发行:清华大学出版社

地 址:北京清华大学学研大厦A座

<http://www.tup.com.cn>

邮 编:100084

社 总 机:010-62770175

邮 购:010-62786544

投稿与读者服务:010-62776969, c-service@tup.tsinghua.edu.cn

质 量 反 馈:010-62772015, zhiliang@tup.tsinghua.edu.cn

印 刷 者:北京市世界知识印刷厂

装 订 者:三河市李旗庄少明装订厂

经 销:全国新华书店

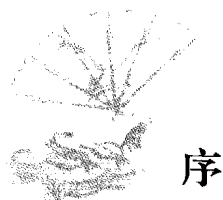
开 本:170×230 印 张:39 插 页:3 字 数:573千字

版 次:2008年9月第1版 印 次:2008年9月第1次印刷

印 数:1~3000

定 价:69.80元

本书如存在文字不清、漏印、缺页、倒页、脱页等印装质量问题,请与清华大学出版社出版部联系调换。联系电话:(010)62770177 转 3103 产品编号:028058-01



序

2006年5月27~28日,来自日本、美国、韩国、中国台湾、香港地区以及中国大陆各高校的80多位活跃在日本语言、文学、文化研究第一线的专家学者云集我国著名高等学府清华大学,出席由清华大学外语系、清华大学日本语言文化研究中心首次举办的大型国际学术会议“2006 清华大学日本语言文化国际论坛”,共同庆祝清华大学建校95周年和清华大学外语系建系80周年。

本届论坛层次之高是少有的,是国内外日本语言文学研究领域著名专家学者的一次大聚会。美国哈佛大学名誉教授久野璋先生,前日本国日语教育学会会长、国立国语研究所所长、现任名古屋外国语大学校长水谷修先生,前世界比较文学研究会会长、现任日本国大手前大学校长川本皓嗣先生,前韩国日语教育学会会长李德奉先生,日本东京大学教授尾上圭介先生,大阪大学教授土岐哲先生,日本名古屋大学名誉教授平井胜利先生以及中国台湾地区日语教育学会常务理事于乃明先生,香港中文大学的儿岛庆治先生,中国日语教学研究会副会长修刚先生和徐一平先生等著名学者及我本人悉数出席,并做了基调讲演或参加了大会的专题讨论。与会代表一致认为,本届论坛无论在层次、规模还是发表成果的质量等方面都达到了相当高的水平,并获得了圆满成功,在国内外相关学术领域引起了较大的反响。

中国现代日语教育的历史,如果以北京大学1946年成立日语专业并开始日语教育为起点,已经走过了60余年的风雨历程。经过半个多世纪的发展和建设,我国的日语教育取得了长足的发展和进步。尤其自20世纪80年代初改



革开放以来,发展的步伐明显加快。无论规模还是质量,应该说都出现了质的飞跃。现在,在全国 400 余所设有日语语言文学专业的高校中,综合大学中的北京大学、吉林大学,外语院校中的北京外国语大学、上海外国语大学,师范院校中的东北师范大学都设有日语语言文学博士点。博士点的设立和本科—硕士—博士教育层次的完善,高层次日语人才培养体系的建立,成为我国日语教育发展的重要标志。

我国日语教育的发展是显而易见的,但也面临着许多必须解决的课题。要继续解决好教什么,怎么教,以及人才培养规格等问题。外语既然属于人文科学的范畴,就要实现外语教学的人文回归。但外语教学又区别于文史哲等人文学科的教学活动,有着自己的特色,必须培养学生的外语技能。这就要求我们在教授外语、培养学生的外语技能的同时,着重培养学生的人文厚重感和独立观察、思考、解决问题的能力。这种能力可简单概括为“三明能力”,即“明晰的观察”、“明晰的思考”和“明晰的表述”。所谓“明晰的观察”,就是观察、发现问题的能力。无论在学习期间还是毕业走向工作岗位之后,都要善于观察问题、发现问题。所谓“明晰的思考”,指的是在发现问题之后,寻求解决问题的方法和途径的能力。这是一个十分重要的实践过程,与结果相比,过程的缜密性尤为重要。所谓“明晰的表述”,就是将观察、发现、解决问题的过程用语言或文字正确而逻辑清晰地表述出来的能力。一个受过高等教育的人,应该基本具备这三种能力。而使通过大学阶段的学习,具备这三种能力,也应该是大学教育的基本目标。

任何一种语言,无论是音声还是文字,都是一种表征,一种形式,一种内容、思维方式和行为方式的载体。使这种表征形式发生变化的永远是内容和思维、行为方式的变化。所以,我们在教授外语的时候,仅仅教授语言的形式是远远不够的。必须在教授语言形式的同时,通过语言形式的变化,让学生了解促使这种变化发生的内因——支撑语言形式的内容的变化。要通过教授语言,让学生了解语言对象国的历史、文化、社会与习俗。这样才会使学生掌握的外语不再是仅仅停留在语言表层的形式外壳,而是与内容紧密结合的有机体。实际上,把掌握的外语作为工具是浅层的,而当掌握外语成为一种修养的时候,才是

教授和学习外语的终极。

在日本研究方面,和日语教学一样,我国的日本研究虽然也取得了不菲的成绩,但仍然不全面、不细致、不深入。相对于日本对我国的研究而言,存在很大的差距。从世界格局和我国的发展而言,我个人认为,美国自不待言,俄罗斯、日本、印度等国家无论如何都是最应该、最值得研究的。为了国家的发展和长治久安,作为从事日语教学与日本研究的主体力量,广大的日语教育工作者理所当然地应该肩负起研究日本的任务。

本次国际学术研讨会,为我们如何进一步提高中国的日语教育水平 and 质量,拓宽日本研究的广度,加大力度和深度,都提供了很好的借鉴。

为了进一步扩大本届国际论坛的学术影响,清华大学外语系、清华大学日本语言文化研究中心把本次会议的基调讲演、大会专题讨论的发言以及各位代表的论文经过筛选编辑成书,取名为《日本语言文化研究——日本学框架与国际化视角》。书中收录了国内外 51 所学校或研究机构的 69 位学者的 62 篇论文。其中基调讲演稿 6 篇,大会专题讨论发言稿 7 篇,日语语言研究论文 27 篇,日语教学研究 9 篇,日本文学研究论文 6 篇,日本文化研究 7 篇。从论文内容来看,日语语言研究涵盖了语法、文字、词汇、语音、语言学理论、语言表达、语料库研究、社会语言学等方面;日语教学研究包括语言习得、课程政策、日语能力考试、听力课程、语音声调、会话分析、交际能力培养等内容;日本文学研究中既涉及古典文学,又涉及近现代文学;日本文化研究除传统文化外,还包括哲学、艺术、报刊、跨文化交际、日本概况研究等。覆盖面很广,且有比较高的深度和独到见地,能够在一定程度上代表当今国内外日本语言文化研究的水平。这些成果不仅为学界提供了不可多得的学术前沿信息,对于提高年轻一代的研究人员以及日本语言文学专业研究生的研究能力,也具有重要的指导意义和借鉴价值。

清华大学外语系日语专业和日本语言文化研究中心虽然起步晚,但发展快。在短短的几年时间里,在系领导的支持和日语专业冯峰、张威教授的带领下,已经建立起一支学历高、研究能力强、教学质量好的师资队伍,走在了全国同行的前列。本次论文集的编辑出版,是清华大学外语系和日本语言文化研究

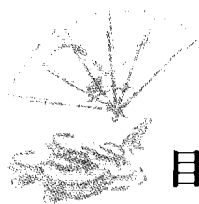
中心对中国日语教学和日本研究界做出的一大贡献。我热切地期待着论文集为进一步促进国内外日语学界的学术交流与合作,提高中国的日语教育 and 研究水平起到应有的积极作用。

中国日语教学研究会名誉会长、文学博士

吉林大学外国语学院院长、博士生导师

宿久高

2008年3月10日 于吉林大学南区樵夫斋



目 录

序	宿久高(I)
---------	----------

一、基调讲演

中国における日本語教育と課題	宿久高(3)
日本語教育の課題と展望	水谷修(9)
日本語研究と言語理論研究	久野暉(16)
日本語教育と文学・文化リテラシー	川本皓嗣(27)
日中対照言語学	平井勝利(35)
日本語学——何のための文法研究	尾上圭介(38)

二、大会专题讨论

中国における大学日本語専攻の現状と問題点	修剛(47)
韓国の日本語教育における新しい動きとジレンマ	李徳奉(52)
日本語教育の現状と今後の動向を見据えて	土岐哲(56)
台湾大学的现况与发展 ——以政大外语教学为主兼论日文界动向	于乃明(60)
香港における日本語教育と今後の問題	兒島慶治(68)

新しい時代に求められる日本語教育と人材養成の目標

- 清華大学日本語学科の思索と実践をふまえて— …… 張威(72)
- 21世紀における日本学研究と日本語人材養成
- 司会者の言葉として— …… 徐一平(77)

三、日语语言研究

关于汉语新词中日语借词的一个考察

- 以近年出版的辞书为对象 …… 彭广陆(83)
- “V上”和“V上げる/V上がる”构成的体 …… 林璋(99)
- 「表す」言葉から「する」言葉へ …… 定延利之(109)
- 連語論から見る“上”+空間詞について …… 高橋弥守彦(116)
- 汉日平行类义词库的建设初探 …… 施建军(127)
- 格フレームと“N₁のN₂” …… 張佩霞(136)
- 「途中」の意味構造について …… 山岡政紀 李奇楠(144)
- 文法論における形式と意味をめぐって
- 有对自動詞可能文研究の事例から— …… 張威(155)
- 経路表現の日中韓対照研究 …… 朴貞姫(166)
- 中国語の“兼语式”と日本語の使役表現について …… 戦慶勝(179)
- コーパスを利用した日本語の複合動詞の研究 …… 杉村泰(189)
- 汉日重叠式名词句法功能比较 …… 譙燕(197)
- 「だろうではないか」と「まいではないか」の覚え書 …… 張興(208)
- 日本語の受身文の研究
- 中国人への日本語教育に関連して— …… 王彦花(221)
- 文末の“～シテイル”とそれに対応する中国語について …… 張岩紅(231)
- 日本における罵倒語に関する一考察
- 日本と他国、人を罵る知恵の違いについて— …… 徐曙(242)
- 关于日语汉字的定位问题 …… 潘钧(253)

複合名詞に見る日本語アクセントの統語機能

- 東京語と廈門語の比較研究— …… 朱新建(265)
- テモラウ文と受身文との相補関係について …… 王燕(277)
- 自発表現、受身表現の日中対照研究
- 日本語の論説文における用法とその指導— …… 飯嶋美知子(287)
- 有情主体に付く「ニハ」の意味と構文 …… 黒崎佐仁子(296)
- プロトタイプ理論に基づいた受動構文の日中対照 …… 葉菁(305)
- 『今昔物語集』“被”字结构解析
- 以「天竺部」「震旦部」中出现的例句为考察对象 …… 杨金萍(318)
- 关于日语被动句的句式结构与表意功能 …… 郭翠英 陆泽军(327)
- 日汉语被动句语用色彩对比研究 …… 王黎今(339)
- 取立てと現実性
- 取立て助詞を中心に— …… 黎燕(348)
- 「～てください」の命令から依頼への移行 …… 張瑾(354)

四、日语教学研究

言語教育への生態学的アプローチ

- 言語生態学に基づく言語生態系の育成:
- 中国語母語話者の場合— …… 岡崎敏雄(363)
- 運用力を養成する学習環境
- 中国における日本語教育の現状と課題— …… 岡崎眸(372)
- 日本語能力試験『出題基準』語彙リスト作成中間報告
- …………… 秋元美晴 阿部洋子 押尾和美 高梨美穂(382)
- 中国における教育課程政策の動向
- 教わることから自ら学ぶことへ— …… 唐磊(395)
- 初級日本語能力の養成
- 第二外国語実践研究— …… 王婉蚩(408)



対面聴解における「質問」の技能

—コミュニケーションのための聴解力養成

に向けて— …………… 横山紀子(415)

東京語の動詞・複合動詞アクセントの習得について

—中国語(北京・上海)話者の場合— …………… 劉佳琦(424)

母語の異なる留学生による支援の可能性

—中国語母語話者による外国人生徒支援

事例から— …………… 内田紀子(440)

中国台湾の女子大生同士と日本の女子大生同士の初対面

会話の対照分析

—会話の内容面について— …………… 張瑜珊(451)

五、日本文学研究

日本文学と漢詩文 …………… 佐藤利行(469)

寿永三年(1184)の源平争乱を描いた番外謡曲 …… Michael Watson(479)

二つの国に生まれた似ている作品

—魯迅の『野草』と夏目漱石の『夢十夜』の

比較研究— …………… 于長敏 陳雲哲(489)

白居易与日本的隐遁思想

——以《池上篇》、《池亭记》、《方丈记》为例 …………… 雋雪艳(495)

有島の人間論

—『惜みなく愛は奪ふ』— …………… 馮海鷹(505)

古典日本文学本文研究におけるコンピュータ使用

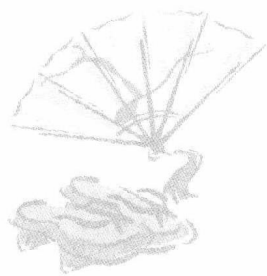
について …………… 緑川真知子(516)

六、日本文化研究

山崎闇斎における「神儒妙契」について …………… 韋立新 劉錚(529)

日本概況課在异文化认知中的作用 …………… 周洁(541)

试论大和绘的艺术特色	
——以《源氏物语绘卷》为例	滕军(552)
日本跨文化交际研究概述	卢涛(568)
从《亚东时报》看晚清时期中日共同言论平台的构成	陈爱阳(578)
西周における性	
——その翻訳と儒学の思想的伝承について——	孫彬(589)
三木清的协同主义哲学	
——昭和前半期知识分子的理想与挫败	刁榴(599)
后记	(609)



基调讲演

日语语言文化研究

——日本学框架与国际化视角



中国における日本語教育と課題

宿久高

1. 中国における日本語教育の発展

新中国が成立後、北京大学、对外貿易大学、吉林大学、上海外国語大学において、相次いで日本語学科が設置された。新中国の発展と共に、中国における日本語教育も大きな発展を遂げ、特にここ十年の発展が速く、いまや英語に次ぐ第二外国語となっている。

20 世紀 90 年代以来、中国日語教学研究会と日本国際交流基金は協力して、1993、1998、2003 年の三回にわたって中国日本語教育機関調査を行った。調査結果によると、中国全土にある 2400 校程度の大学において、日本語教育機関として日本語学科を設置した大学は 93 年までで 80 校、98 年までで 114 校であった。ところが、2003 年には 250 校と 98 年の 2 倍以上にまで日本語学科の数が増えてき、また、調査による正確の数字ではないが、最近の情報によると、日本語教育機関として日本語学科を設置した大学は今年までで 358 大学にも上り、教員数は 3000 人、学生数は 17 万人を超えていると言われている。そして、更に高いレベルでの日本語教育の発展もまた速いものであり、今の中国では大学院修士課程を設置した大学は 26 校と言われて、国务院学位委員会の審査にパスして、総合大学では北京大学、吉林大学、外国語大学では上海外国語大学、北京外国語大学、師範大学では東北師範大学において大学院博

士課程が設置されている。

周知のとおり、世界人口の中では、英語を話す人口の割合が一番大きい。しかし、この状況が少しずつ変わってきているというのも事実である。イギリスの言語学者が最近の調査報告で分析したように、英語が世界言語になるという見方はすでに挑戦に直面している。世界人口の中では英語を母語とする人口の割合が下がりつつあるが、その反面、むしろ第二言語として使われる場合が多いようである。現代言語教育の立場から言えば、英語教育の主な貢献は二つの言語、あるいは多言語を話せる新しい世代を養成したことにあるのだが、しかし、英語だけしか話せない人間は多言語社会に溶け込むのがなかなか難しいことに気づくだろう。これからも英語は依然として使用人口の一番多い言語であることには間違いなからうが、しかし、世界が多元的に発展しているのと同じように、言語発展の多元化もまた人間社会発展の必然の成り行きとなろう。現代中国においてもまた言語社会の多元化の徴候がみられる。日本語教育の発展は、一側面からこのことを物語っていると言えよう。

1978年後、中国で改革開放の方針を実施したため、日本との間に経済、文化、科学技術、貿易等多分野にわたる交流が益々盛んになった。在中国日本大使館から出された『日本・中国友好合作図解』によると、貿易の面においては、中国は日本最大の貿易相手国になっており、人的交流の面では、国交回復の1972年から今年までの30余年間、最初の9000人から300万人に増加し、300倍近い増加を見せている。留学生の交流も盛んであり、2000年の初頭までには、中国に留学する日本人留学生が1.3万人、日本に留学する中国人留学生が2.9万人で(就学生を含まない)、日本にいる外国人留学生の中では、中国人留学生の人数が一番多い。¹ こういう背景のもとで、日本語人材の需要量が増える一方であり、「日本語ブーム」が中国の大学における日本語教育の活性化をもたらしたことは言うまでもない。

80年代に入って、中国の日本語教育に大きい貢献をした一つの取り組みがあった。「日本語教師培訓班」(俗に「大平学校」と言う)の開学である。1981

年に開学した「日本語教師培训班」は中国の日本語教育のための教員養成を目的とし、毎年全中国の大学より120人の日本語教師を迎え、5年間で600人を養成した。「培训班」を終了した人のほとんどは元の大学に戻って日本語教育の第一線で活躍し、いまや中国の日本語教育を支え、リードする中堅的な存在となっている。新中国の日本語教育史上におけるもっとも代表性のあるこの取り組みは中国の日本語教育の発展に深い影響をもたらし、大きく寄与した。この取り組みの重要な意義は、「日本語教師培训班」の設置そのものにとどまらず、日本語の特訓を受けることを通して視野が広められ、日本語の教授法や日本の歴史、社会、文化等各方面の知識が身に付けられたことにあったと思う。

2. 中国における日本語教育の課題

中国の大学における日本語教育の発展に伴って、人材需要の変化が日本語教授法の革新を促した。学生のコミュニケーション能力を養成すると同時に、どのようにして日本文化を日本語教育の中に導入するのか。つまり、どのように日本の歴史、文学、社会、風習などの日本語の支えとなっているものを言葉を教えると同時に学生に教え、学生の日本に対する理解を深め、学生の人文的資質を養成するのかが一つの大きな課題となったのである。

大学の専門日本語教育の養成目標は基礎がしっかりしており、高い言葉の運用能力と割に高い理論水準を有し、質の高い複合型の高級日本語人材を養成することにある。日本語ができるだけでなく、日本語でものを考え、文化的含みのある表出ができるようにしなければならない。そのためには、教育側としては絶えず教育方法の改革が要求される。改革開放後、中国の外国語教育には外国のいろいろな教授法が取り入れられてきた。外国から進んだ教授法を取り入れることが中国の外国語教育の発展に大いに役立ったことは言うまでもないが、しかし、「持ってくる主義」にだけ頼るのではどうにもならない。改革、革新、それらの教育方法を中国文化の土壌に深く根を植えさ